



平成26年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日
上場取引所 東 福

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長
定時株主総会開催予定日 平成27年3月30日
有価証券報告書提出予定日 平成27年3月30日
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 江里口俊文
(氏名) 渡邊和雄
配当支払開始予定日

TEL 0968-66-2111
平成27年3月31日

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年12月期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | |
|---------|-------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 26年12月期 | 7,518 | △4.5 | 242 | △32.6 | 268 | △13.2 | 171 | △10.6 |
| 25年12月期 | 7,873 | 3.1 | 360 | 33.6 | 309 | 50.7 | 191 | 50.7 |

(注) 包括利益 26年12月期 198百万円 (△13.3%) 25年12月期 228百万円 (68.3%)

| | 1株当たり当期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 | 自己資本当期純利益 率 | 総資産経常利益率 | 売上高営業利益率 |
|---------|------------|-----------------------|----------------|----------|----------|
| | 円 銭 | 円 銭 | % | % | % |
| 26年12月期 | 16.58 | — | 1.6 | 1.2 | 3.2 |
| 25年12月期 | 18.73 | — | 1.9 | 1.4 | 4.6 |

(参考) 持分法投資損益 26年12月期 一百万円 25年12月期 一百万円

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 26年12月期 | 21,691 | 10,460 | 48.2 | 1,011.90 |
| 25年12月期 | 21,800 | 10,355 | 47.5 | 1,001.72 |

(参考) 自己資本 26年12月期 10,460百万円 25年12月期 10,355百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

| | 営業活動によるキャッシュ・フロー | 投資活動によるキャッシュ・フロー | 財務活動によるキャッシュ・フロー | 現金及び現金同等物期末残高 |
|---------|------------------|------------------|------------------|---------------|
| | 百万円 | 百万円 | 百万円 | 百万円 |
| 26年12月期 | 500 | △239 | △226 | 273 |
| 25年12月期 | 655 | △464 | △261 | 239 |

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | | 配当金総額 (合計) | 配当性向 (連結) | 純資産配当 率(連結) |
|-------------|--------|--------|--------|------|-------|---------------|--------------|----------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 百万円 | % | % |
| 25年12月期 | — | 4.00 | — | 6.00 | 10.00 | 102 | 53.4 | 1.0 |
| 26年12月期 | — | 3.00 | — | 5.00 | 8.00 | 82 | 48.2 | 0.8 |
| 27年12月期(予想) | — | 3.00 | — | 5.00 | 8.00 | — | — | — |

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期 純利益 |
|-----------|-------|-----|------|------|------|------|-------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 3,800 | 3.8 | 70 | 14.1 | 40 | 17.0 | 20 | 0.7 | 1.93 |
| 通期 | 7,800 | 3.7 | 310 | 27.6 | 280 | 4.2 | 180 | 5.0 | 17.41 |

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

| | | | |
|---------|--------------|---------|--------------|
| 26年12月期 | 10,346,683 株 | 25年12月期 | 10,346,683 株 |
| 26年12月期 | 9,149 株 | 25年12月期 | 9,149 株 |
| 26年12月期 | 10,337,534 株 | 25年12月期 | 10,237,589 株 |

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表に対する監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見直し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、〔添付資料〕5ページ「1. 経営成績に関する分析 2) 次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 経営成績・財政状態に関する分析 | 2 |
| (1) 経営成績に関する分析 | 2 |
| (2) 財政状態に関する分析 | 7 |
| (3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当 | 7 |
| 2. 企業集団の状況 | 8 |
| 3. 経営方針 | 10 |
| (1) 会社の経営の基本方針 | 10 |
| (2) 目標とする経営指標 | 10 |
| (3) 中長期的な会社の経営戦略 | 10 |
| (4) 会社の対処すべき課題 | 10 |
| 4. 連結財務諸表 | 11 |
| (1) 連結貸借対照表 | 11 |
| (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 | 13 |
| 連結損益計算書 | 13 |
| 連結包括利益計算書 | 14 |
| (3) 連結株主資本等変動計算書 | 15 |
| (4) 連結キャッシュ・フロー計算書 | 17 |
| (5) 連結財務諸表に関する注記事項 | 18 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 18 |
| (セグメント情報等) | 18 |
| (1株当たり情報) | 19 |
| (重要な後発事象) | 19 |
| 5. その他 | 20 |

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおいては、ゴルフ事業や北海道の遊園地及びホテル事業は堅調であったものの、主力事業である九州の遊園地及びホテル事業が多くのお客様の集客が見込まれる繁忙日に悪天候に見舞われたことに加え、夏の記録的な長雨や大型台風の接近により低調に推移したため、当社グループの業績は前連結会計年度を下回る結果となりました。

その結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高7,518,582千円（前連結会計年度比355,032千円減）、営業利益242,913千円（前連結会計年度比117,640千円減）、経常利益268,633千円（前連結会計年度比40,946千円減）となり、当期純利益は171,424千円（前連結会計年度比20,354千円減）となりました。

| | 前連結会計年度 (千円) | 当連結会計年度 (千円) | 増減額 (千円) | 増減率 (%) |
|-------|-----------------|-----------------|-------------|------------|
| 売上高 | 7,873,615 | 7,518,582 | △355,032 | △4.5 |
| 営業利益 | 360,553 | 242,913 | △117,640 | △32.6 |
| 経常利益 | 309,579 | 268,633 | △40,946 | △13.2 |
| 当期純利益 | 191,779 | 171,424 | △20,354 | △10.6 |

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、季節毎に多彩なイベントを開催いたしました。

春のイベントにつきましては、メインイベントを「超決戦バトルステージ」と題し、第一部は獣電戦隊キョウリュウジャー、第二部・第三部では仮面ライダー鎧武をメインキャラクターとし、巨大ステージを舞台に、炎の演出など様々な仕掛けを盛り込み、グリーンランドでしか見ることができないオリジナルのストーリーで開催いたしました。さらに、サブイベントとして「マギ展―マジカルアドベンチャー in グリーンランド」と題し、若い世代を中心に人気が高いアニメ「マギ」の展示イベントを開催し、併せて飲食店舗でのコラボメニューの販売や、アニメ声優のトークショーを実施いたしました。さらに、春休み及びゴールデンウィークには、人気のキャラクターショーも開催し、集客に努めました。

夏のイベントにつきましては、世界レベルのパフォーマーたちによるダイビングショー「ハリウッド ウォーターダイブ サーカス」や「仮面ライダー鎧武 究極(アルティメット)バトル」、さらに「劇場版仮面ライダー鎧武 出演俳優トークショー」などのイベントを開催し、集客を図りました。

また、夏恒例の花火イベントにつきましては「花火シリーズ2014夏」と題し、「さのよいファイヤーカーニバル2014」に始まり、お盆期間の打上花火ショー、締めくくりとして「タマホームスペシャル2014 第11回 花火物語」をそれぞれ開催し、8000連発の打上げ花火や水中花火、レーザー光線とのコラボやニアガラなど、各花火イベントで違った趣向の演出を楽しんでいただきました。さらに、8月の夜間営業におきましては、園内の夜間イルミネーション演出の拡充に加え、夜間特別イベントとして、「サマー大道芸パフォーマンスステージ2014」を開催いたしました。

秋のイベントにつきましては、「グリーンランド モンスターズハロウィン」と題し、園内にはハロウィンの装飾を施すなど、季節感のある演出を行いました。また、モンスタートラック・スタントカー・フリースタイルモトクロスが日本初共演を果たした「モンスターマシーン アクロバットバトル」を開催し、ハロウィン期間中は装飾や小道具などをハロウィンバージョンとして実施いたしました。さらに、こどもたちに絶大な人気を誇る「妖怪ウォッチ」や「仮面ライダードライブ」などのキャラクターショーを開催し、ファミリー層の集客に努めました。その他にも、ハロウィンをイメージした音楽にあわせ、仕掛け花火や打上げ花火が夜空を彩る「ハロウィン花火ショー」を開催いたしました。さらに、9月25日に迎えた当社創業50周年を記念して、「おかげさまで50年」と題し、利用者などの思い出の写真や品物を展示するイベントを開催いたしました。

冬のイベントにつきましては、12月20日からの11日間、ウィンターイルミネーション「光のファンタジー」と題し、イルミネーションが輝く幻想的な夜の遊園地を楽しんでいただきました。また、大晦日のカウントダウンイベントは「グリーンランドカウントダウンパーティ DX」と題し、恒例のニューイヤー花火に加え、アーティストによるライブイベントや、福岡よしもとによるお笑いライブなどを開催し、多くのお客様にお越しいただきました。また、カウントダウン特別料金の設定や、ライブ特別観覧席セット前売券などを販売し、売上高の拡大に努めました。

施設面におきましては、お客様に喜ばれる魅力ある施設づくりを進め、園内の四季折々の自然景観の維持及び園内景観の向上に努めました。特に夜間営業時においては、園路周辺に加え、各遊具においてもイルミネーションを拡充させ、新たな光の演出に取り組みました。また、「恋人の聖地」サテライト施設への選定を受け、恋愛スポットの新設や、既存施設のリニューアルを行い、新たなブランド価値の創出にも努めました。さらに、新アトラクションとして、からくり扉やトリックアートなどの仕掛けを駆使した、お客様体験・体感型の施設「巨大立体迷路 KARAKURI 城」を新設し、利用者の拡大を図りました。また、大型プール施設「ウォーターパーク」におきましては、新エリア「わんぱくバルーン」をオープンさせ、多くのお客様に楽しんでいただきました。

この結果、季節毎の多彩なイベントの開催や、アトラクションの新設などの園内施設の魅力向上及び入園料改定による売上高の拡大に取り組んだものの、多くのお客様の集客が見込まれる繁忙日が悪天候に見舞われたことに加え、夏の記録的な長雨や大型台風の接近により、利用者数は、前連結会計年度比92,759人減少の821,431人となり、売上高は前連結会計年度比372,534千円減少の3,181,119千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比108,002千円減少の318,726千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春のイベントといたしまして、「わんわん大サーカス」や、人気キャラクターを起用した「4大ヒーロー&ヒロイン大集合」を開催し、ファミリー層の集客を図りました。

夏のイベントにつきましては、毎年恒例のコンサート「JOIN ALIVE (ジョインアライブ) 2014」が、いわみざわ公園と遊園地で開催され、TOKIO・ウルフルズなど多彩なアーティストが出演し、多くのお客様に楽しんでいただきました。また、「USAバイクサーカス」や「いわみざわ彩花まつり花火大会」・「いわみざわ公園花火大会」により集客に努めました。さらに、夏休みや秋の休日を中心に、「2014サマー&オータムフェスティバル」と題し、テレビなどで人気の様々なキャラクターのショーを開催いたしました。この結果、イベントの開催効果や、ゴールデンウィーク期間の好天により利用者数が増加したことに加え、フリーパスの料金改定による客単価増加も功を奏し堅調に推移いたしました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましても、平年の倍近くの積雪及び低温の影響で、1月の3連休と2月上旬は伸び悩んだものの、その後は新規団体の取り込みや、12月のオープン日の前倒しにより順調に推移いたしました。以上の結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前連結会計年度比19,263人増加の232,646人となり、売上高は前連結会計年度比70,732千円増加の673,654千円、営業利益につきましては前連結会計年度比23,843千円増加の46,095千円となりました。

以上の結果、利用者数は前連結会計年度比73,496人減少の1,054,077人となり、売上高は前連結会計年度比301,801千円減少の3,854,773千円、営業利益につきましては前連結会計年度比84,158千円減少の364,821千円となりました。

(ゴルフ事業)

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、ヘッドスピード測定やドライバーの飛距離測定などの多彩なイベントを実施することで、オープンコンペをはじめとしたクラブ主催コンペの魅力を上向きさせるとともに、コース整備においてもティーグラウンドの拡張・整備を実施し、快適なプレー環境の提供に取り組みしました。また、今まで以上に樹木の剪定に取り組み、景観の変化により、これまでと違った楽しみを感じていただけるようにも努めました。クラブハウスにおきましては、男性浴室への全身シャワーの導入や洗い場の拡張、仕切り板を設置する改装を行い、快適性の向上を図りました。また、女性ゴルファーの満足度向上のため、女性向けレストランメニューの充実、浴室内の全面改装、アメニティの提供などにも取り組みました。

『大牟田ゴルフ場』におきましては、多数の男子プロを含めたプロアマチャリティなどの大型コンペの誘致や、シニア層・女性ゴルファーに特化したイベントの定期開催による集客を図りました。コース整備においても、グリーン拡張工事を実施し、今までとは違ったアンジュレーションをつけることで、コースの変化を楽しんでいただきました。さらには、レディースティーの新設、橋梁の塗り替え及び樹木剪定による景観向上にも取り組みました。クラブハウスにおきましても、利便性及び快適性の向上に向けた改修を行い、顧客満足度の向上を図りました。

『広川ゴルフ場』におきましては、毎月1回の誰でも参加可能なオープンコンペの開催や、参加者が女性限定のコンペなど、様々な内容のコンペ開催による集客に努めるとともに、コース整備においても、打ち込み防止センサーの取り付けを行い、安全面の向上にも取り組みました。クラブハウスにおきましては、男性トイレや女性浴室の改修など、設備の改善にも努めました。また、フランス人の整体師によるマッサージサービスの提供も開始し、他ゴルフ場とは違った魅力を創出することで、満足度の向上にも努めました。

また、大牟田・広川ゴルフ場におきましては、快適なプレーが楽しめるキャディ付プレーを積極的に販売し、セルフ化が進む中、他ゴルフ場との一層の差別化を図り集客に努めました。

さらに3ゴルフ場のレストラン共同で地元ブランド牛を使用したステーキやすき焼きなどの高単価商品の販売にも取り組み、満足度の向上と単価アップに努めました。

韓国を中心とした海外からのゴルファーの誘客にも積極的に取り組み、年間で6,000名以上の利用者を獲得し、売上高獲得へとつなげる一方で、相互施設利用提携も推進し、国内外8ヶ所目となる、韓国の大邱(テグ)カントリークラブと新たに契約を締結し、3ゴルフ場の付加価値の向上に取り組みしました。

以上の取り組みの結果、3ゴルフ場を合わせた利用者数は前連結会計年度比1,514人減少の138,855人となったものの、単価アップなどの取り組みが功を奏し、売上高は前連結会計年度比14,559千円増加の1,023,001千円となり、営業利益につきましても、前連結会計年度比28,112千円増加の33,576千円となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地内のショップに両ホテルのPRコーナーを設け、情報発信に注力するとともに、相互の人材交流による運営の効率化に努めました。

『ホテルブランカ』におきましては、遊園地に隣接する立地優位性を活かし、遊園地入園とバーベキュー利用をセットにしたプランやパスカワールド（ボーリング場）利用と鍋バイキングをセットにしたプランの販売に取り組むとともに、スペイン・ガリシア州政府公認の「ガリシアプレミアムポーク」をしゃぶしゃぶ・ステーキで楽しむことができる食べ放題イベントを開催し、集客に努めました。また、お客様がホテルヴェルデのトレヴィヤグリーンスターを利用する際の無料送迎に加え、期間限定で宿泊者のお食事をお部屋で提供するサービスを開始し、満足度の向上に注力しました。さらに、遊園地やウォーターパークへの通路及びその周辺環境整備を行うことで、景観の改善にも取り組みました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地の春のイベント開催にあわせ、「仮面ライダー鎧武」ルームを期間限定で新設し、「くまモン」をテーマとした「ゆるっくまルーム」を含めた特徴ある客室の販売に加え、韓国・台湾を中心とした海外からの宿泊客の獲得に注力しました。また、期間限定で付加価値を高めたプレミアム宿泊プランを設定するなど、話題性の高い商品造成にも取り組みました。レストラン部門では、日本料理「小岱」において、第27回全国日本料理コンクール郷土料理部門で東京都知事賞を受賞した料理長による郷土会席を提供するとともに、その情報発信にも注力し、話題性の喚起を図りました。また、カフェ&バー「グリーンスター」のランチメニュー強化や、「トレヴィ」をハイグレードなラウンジに改装し、落ち着いた空間でゆっくりとカクテルなどを楽しむことができるスペースといたしました。さらに、メインエントランス横に、解放感あるデッキでアフタヌーンティーセットなどが楽しめるオープンカフェテラスを新設するなど、各店舗の特色を活かし、様々なニーズに応えることで集客に努めました。婚礼部門では、打上げ花火の演出や、「恋人の聖地」のサテライト施設として選定された遊園地の恋愛スポットでの前撮りなど、オプションサービスを充実させるなどして競合他社との差別化を図る一方、婚礼試食会を最大限に活用した高単価料理の案内にも力を入れ、売上高の拡大にも取り組みました。宴会部門ではカニやステーキが食べ放題のイベントをはじめとした様々なイベントの開催、接客サービスの質の向上により、リピーターの獲得に努めました。また、遊園地内ショップの営業でも、新たに大型2店舗の営業を開始することで、売上高の拡大に取り組み、既存各店舗でも商品構成の見直しを図りました。ギフト商品販売及び保険代理店部門では営業活動の強化や取扱商品の充実にも注力しました。

しかしながら、夏休みの長雨や4回にわたる大型台風の接近による予約キャンセルなどの影響が大きく、ホテルブランカならびにホテルヴェルデを合わせた宿泊者数は前連結会計年度比3,580人減少の63,040人となりました。売上高は遊園地内ショップの増加で前連結会計年度比10,152千円増加の1,529,691千円となりましたが、宿泊者数の減少などにより営業損失は25,758千円（前連結会計年度は営業利益15,341千円）となりました。

『ホテルサンブラザ』におきましては、インターネット予約による取り込みを図る一方、改装された客室の積極的販売により高単価利用者の獲得にも努めました。また、焼酎フェア、ふぐ会席、生バンドに合わせてダンスが楽しめるパーティーの開催など、特色あるイベントの開催や、観光客・視察団などへの昼食の積極的販売にも取り組みました。婚礼部門では、人気が高まってきているバラ園におけるウェディングのPRを強化し、婚礼客の獲得に取り組みました。さらに1階フロアでのワインバーやワインの販売をさらに充実させ、ホテルの魅力度向上にも努めました。

『北村温泉ホテル』におきましては、温泉会員の特典内容の拡充、様々なイベントの開催、パークゴルフプランの販売強化、大学スポーツ部の合宿の誘致などにより、集客に努めました。また、季節感のある食事メニュー展開や、ショップの商品構成見直しによる単価アップも図りました。さらに、4月からは新たに北村中央公園・桜づつみ公園の指定管理者を受託し、売上高の拡大に取り組みました。

この結果、ホテルサンブラザならびに北村温泉の宿泊者数は前連結会計年度比3,408人減少の27,387人となったものの、客単価アップや、北村中央公園・桜づつみ公園の指定管理者受託により、売上高は前連結会計年度比18,478千円増加の629,899千円、営業利益は前連結会計年度比2,964千円増加の17,000千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前連結会計年度比6,988人減少の90,427人となり、売上高は前連結会計年度比28,630千円増加の2,159,590千円、営業損失は8,758千円（前連結会計年度は営業利益29,377千円）となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、ウルトラマンランド跡地での駐車場賃貸や通年でメガソーラー事業用地の賃貸料があったものの、前年9月までウルトラマンランドの土地賃貸が発生していたため、売上高は前連結会計年度比6,244千円減少の160,739千円となり、営業利益につきましては、前連結会計年度比21,800千円減少の93,990千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、建設資材の販売は増加したものの、一部受注工事の終了により、土木資材の販売が減少したため、売上高は前連結会計年度比90,176千円減少の320,477千円、営業利益は前連結会計年度比6,769千円減少の48,501千円となりました。

2)次期の見通し

当社グループを取巻く環境は、多様化する顧客ニーズに加え、今後も気象環境や経済環境など様々な変化が続くものと予測されます。

このような状況の中、当社グループといたしましては、「変化への新たな挑戦」をテーマに、顧客ニーズや外部環境の変化をいち早く感じ取り、お客様の視点に立った最高のサービスを提供し、安全安心で快適な時間を過ごしていただくことで業績向上に努めてまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、グリーンランドでしか見ることができないオリジナリティあふれるイベントの開催やイルミネーションのさらなる拡充により新たな集客を図ってまいります。また、九州最長を誇る「恐竜コースターガオー」を安全性の向上及び乗り心地改善のため大規模リニューアルするほか、遊具及び施設の点検整備や園内環境整備にも注力し、安全面の強化にも取り組んでまいります。

春のイベントは、メインイベントを「仮面ライダードライブ スーパーアクションバトルステージ」と題し、子どもたちに絶大な人気を誇る「仮面ライダードライブ」のショーを第一章・第二章の二部作で展開いたします。期間中は毎日、日本最大規模のステージで、炎の演出、ワイヤーアクションを駆使した激しいバトルアクションショーを繰り広げます。さらにゴールデンウィークには「平成ライダー大集合」、6月6日・7日には「歴代ライダー大集合」を開催し、さらなる集客を図ります。また、サブイベントとして「特設!!『10周年記念モンスターハンター展 ミニキャラバン』 in グリーンランド」と題し、国民的大ヒットシリーズであるゲームソフト「モンスターハンター」を題材としたイベントを開催いたします。美しい原画や貴重な資料などの展示をメインに、園内ではスタンプラリーや飲食店舗でのコラボメニューの販売なども行い、コアなファンを含めた幅広い層の集客を図ります。その他、春休み期間や週末などには人気のキャラクターを起用したショーなどを併せて開催いたします。また、春のイベント以降につきましても、各世代で話題性の高い題材を選定し、ここでしか見ることのできないイベントを季節毎に開催し、集客を図ってまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、集客の山場となる期間をメインに、北海道初開催となる「妖怪ウォッチランド」をはじめ、集客のターゲットに応じた様々なイベントを開催し、集客に努めます。また、立体迷路やこども向け遊具などの新規遊具の導入や、大観覧車など既存遊具のリニューアルにより、新たな利用者を獲得するとともに、入園料の改定も行い、売上高の拡大にも努めてまいります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、学校授業を中心に子ども会などの各種団体の誘致に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、着実な営業活動に取り組むとともに、安易な価格競争に走らず適正価格の維持に努めてまいります。さらに、レストランやショップの充実による客単価アップに向けた取り組みに加え、地道な営業の成果により増加した韓国客への対応も万全のものとし、集客及び売上高の拡大を図ります。また、各ゴルフ場においてゴルフスキルの高いスタッフが各種企画を通して、顧客との距離を縮めることで、新たな営業活動につなげてまいります。さらに、人的サービスの向上に努めるとともに、コース及び施設面においても、ティーグラウンドやグリーンの拡張などのコース整備によるコースの魅力アップや、練習場の改修、乗用カートのリニューアルに取り組んでまいります。なお、メンバーズコースにおいては、キャディ付プレーの積極販売を継続し、差別化を進めてまいります。さらに、他ゴルフ場では類を見ない会員権所有者への各種特典を広く案内し、付加価値の高い会員権として、新たな会員の獲得及び既存会員の継続につなげ、安定した利用者確保も図ってまいります。相互施設利用提携におきましては、海外及び北海道の提携ゴルフ場との交流をさらに推進し、集客に努めてまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、オフィシャルホテルとしてのブランドイメージ向上のため、様々な商品造成やサービスを展開し、グリーンランドリゾート全体のお客様の宿泊拠点としての役割に磨きをかけてまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、春から夏のバーベキュー、秋から冬の鍋イベントと、年間を通じてイベントを行い、また内容と料金を見直すことで売上高拡大につなげてまいります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、スイートルームを利用した食事会のプランを設定し、新たな顧客層の獲得に努めます。また、海外からの宿泊者向けに予約システムを導入し、海外からのさらなる集客にも取り組んでまいります。客室販売におきましては、遊園地の春のイベント開催にあわせ「仮面ライダードライブルーム」を期間限定で新設するほか、プレミアム宿泊プランの設定など、特徴ある商品造成に努めてまいります。また、館内外のイルミネーションの拡充による魅力のアップにも注力し、レストラン・婚礼部門での集客強化につなげてまいります。ギフト商品販売及び保険代理店部門におきましては、地元企業を中心に、密接な関係構築による継続利用及び新規顧客の獲得に取り組んでまいります。

北海道の『ホテルサンブラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地・ホテル・公園をあわせたリゾート全体の魅力をアピールするとともに、セットプランなどの販売で集客に努めてまいります。

『ホテルサンブラザ』におきましては、宿泊部門でインターネット予約のさらなる強化と団体獲得に注力いたします。婚礼部門ではバラ園でのウェディングなどの独自の魅力を発信していき、宴会部門では地元企業・団体行事の獲得に注力いたします。

『北村温泉ホテル』におきましては、宿泊・宴会・レストラン・温泉にパークゴルフを組み合わせたセットプランの販売を強化いたします。

九州ならびに北海道のホテルとともに、顧客に相互のリゾートエリアや施設利用提携先の情報を発信していくことにより、相互のエリアからの交流を通じた集客にも努めてまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、新規テナントの誘致をはじめ、グリーンランドリゾートエリアを中心とした土地のさらなる有効活用に取り組んでまいります。また、各事業用地の周辺部を含めた景観改善を取り進めるとともに、固定資産税評価替えに向けての検証や借地物件における借地範囲及び借地料の見直しを継続的に行ってまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、既存事業による収益確保に加え、土木建設工事の積極的な受注、コールサンドやポゾテックなどの建設資材の販売をさらに強化していくことで、収益体制の底上げを図ってまいります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい」というキャッチコピーのもと、全員が一致団結して斬新な発想力と実行力をもって新たな挑戦を試み、お客様が夢や感動を享受できるよう、最高のサービスを提供することで、業績向上に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,800百万円(前連結会計年度比+3.7%)、営業利益310百万円(前連結会計年度比+27.6%)、経常利益280百万円(前連結会計年度比+4.2%)、当期純利益180百万円(前連結会計年度比+5.0%)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,691,223円（前連結会計年度比109,328千円減少）となりました。

流動資産は、734,839千円（前連結会計年度比7,373千円減少）となりました。主な要因は流動資産のその他の増加及び、受取手形及び売掛金の減少等によるものであります。

固定資産は、20,956,383千円（前連結会計年度比101,955千円減少）となりました。主な要因は有形固定資産の減少等によるものであります。

流動負債は、4,388,531千円（前連結会計年度比144,916千円減少）となりました。主な要因は未払法人税等、未払金の減少等によるものであります。

固定負債は、6,842,122千円（前連結会計年度比69,695千円減少）となりました。主な要因は長期借入金の増加及び長期預り金の減少等によるものであります。

純資産は、10,460,569千円（前連結会計年度比105,283千円増加）となりました。主な要因は利益剰余金の増加等によるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は営業活動によるキャッシュ・フローで500,044千円増加したものの、投資活動によるキャッシュ・フローで239,388千円、財務活動によるキャッシュ・フローで226,837千円それぞれ減少したことにより、前連結会計年度末に比べ33,818千円増加し、273,610千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、500,044千円（前連結会計年度に比べ155,335千円減少）となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益により281,735千円、減価償却費により423,303千円、資金がそれぞれ増加したためであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、239,388千円減少（前連結会計年度に比べ225,430千円増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出で245,121千円、資金が減少したためであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、226,837千円減少（前連結会計年度に比べ34,801千円増加）となりました。これは主に、長期預り金の返還による支出により178,400千円、資金が減少したためであります。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の用途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき5円となる予定であり、中間配当金3円を含めると年間配当金は1株につき8円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を3円、期末配当金を5円の年間配当金8円を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.25%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

| | |
|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グリーンランド（九州） | 当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内3店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内施設のうち1施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。 |
| 北海道グリーンランド遊園地（北海道） | 空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。 |
| 北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道） | 空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。 |

<ゴルフ事業>

| | |
|-------------------|--------------------|
| グリーンランドリゾートゴルフコース | 当社が当ゴルフ場を経営しております。 |
| 有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場 | 当社が当ゴルフ場を経営しております。 |
| 久留米カントリークラブ広川ゴルフ場 | 当社が当ゴルフ場を経営しております。 |

<ホテル事業>

| | |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ | 有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。 |
| グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ | 有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。 |
| 北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル | 空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。 |
| 生損保保険代理店業等 | 有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。 |

<不動産事業>

| | |
|-----|-----------------------|
| 不動産 | 当社が不動産の売買・賃貸を行っております。 |
|-----|-----------------------|

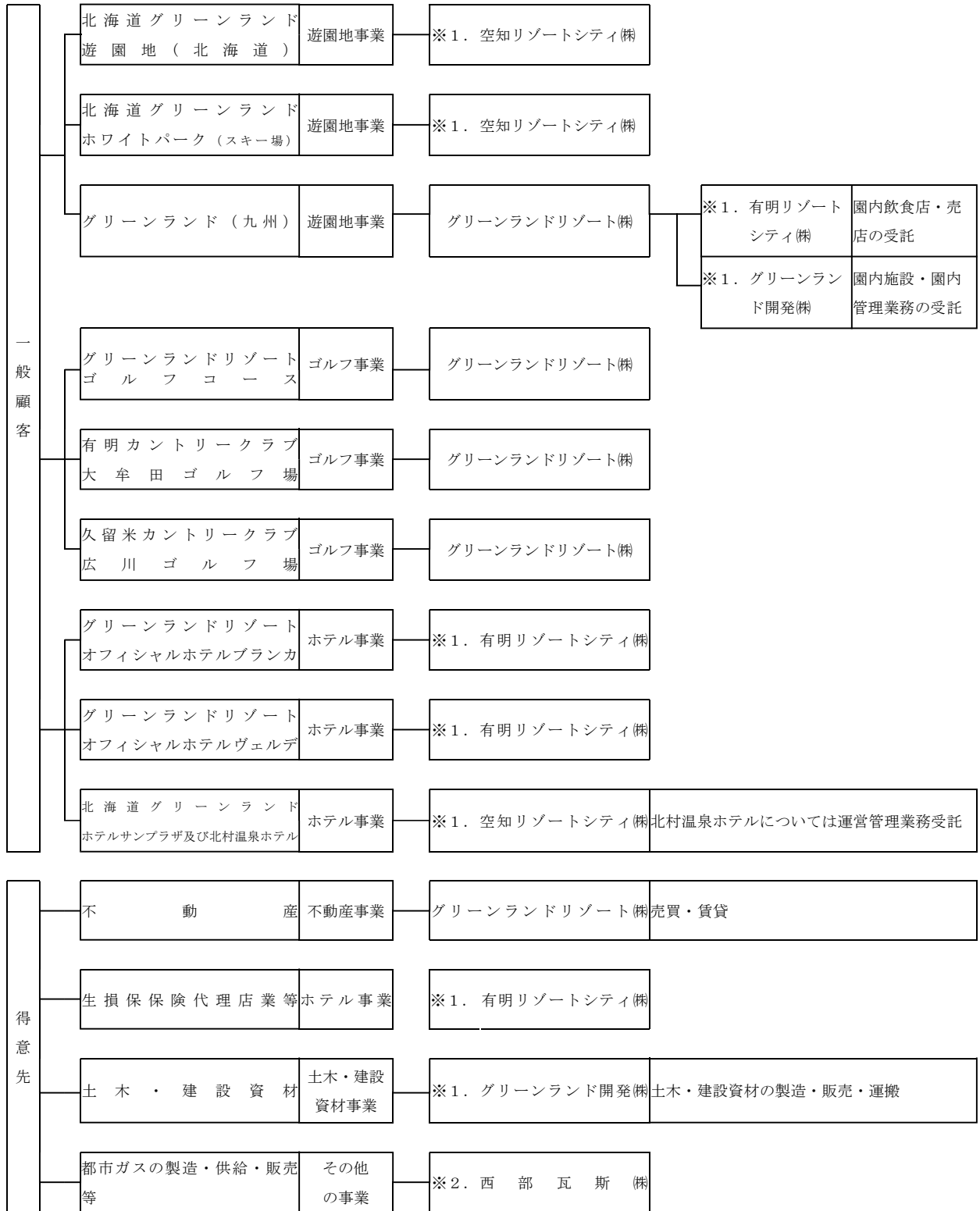
<土木・建設資材事業>

| | |
|-----------------|----------------------------------------------|
| 建設資材の製造・販売・運搬事業 | グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。 |
|-----------------|----------------------------------------------|

<その他の事業>

| | |
|----------------|----------------------------------|
| 都市ガスの製造・供給・販売等 | 西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。 |
|----------------|----------------------------------|

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

創業以来現在まで、たゆまぬ創造・革新によってお客様に常に満足を提供することを心がけてまいりました。これからも企業理念のキャッチコピーである「ココロを『みどり』でいっぱい。」を合言葉に、各事業におきまして、お客様に夢や感動を提供することを最重要課題と位置付、スタッフ一人一人が、いかなる状況の変化にも対応し、その状況を突破するための柔軟な発想と実行力を持つことに重点を置き、新しい付加価値を次々と創出していくことで、当社グループ事業の「強み」に磨きをかけ、日々変化する顧客ニーズや消費動向に対応するとともに、当社グループ事業の競争力を高めることで業績向上に努めてまいります。

また、企業として利益の確保に向けた経営を進めていくことはもちろんのこと、社会的責任を自覚の上、法令の遵守や倫理に則った企業活動を実践し、地域発展への貢献にも努め、すべてのステークホルダーから「信頼」される企業を目指してまいります。

(2) 目標とする経営指標

目まぐるしく変化する消費動向に対応し、常に変化し続ける営業体制作りを心がけ、様々な商品やサービスの提供に努めて集客を図り売上増加を目指すとともに、現状分析及び関連設備の全面的な見直しを行い、無駄な経費の削減に努めてまいります。

このため、売上高経常利益率の向上を目標としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

集客事業を柱とする当社グループでは、多彩なイベントの開催・季節に応じたキャンペーンの造成・昨今増加しつつある女性層や若年層に的を絞った戦略・さらには海外からのお客様に向けた制度を最大限に活かした営業展開や商品の販売強化に引き続き取り組み、さらなる集客を図ります。

また、外部環境に柔軟に対応可能な組織変更やグループ再編による各事業の効率化の実現を目指してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

レジャー産業を取り巻く社会環境は、刻々と変化を続け、消費動向や顧客ニーズはさらに多様化し、依然として厳しい状況が続くものと思われませんが、当社グループとしましては、企業理念である「夢や感動を与える企業」を目指し、お客様一人一人と向き合い、子どもたちに夢を与え、また、多くのお客様に感動をお届けできるような魅力ある施設作りや、真心を込めたサービスの追求に努めていくことで、一人でも多くのお客様にご利用いただき、さらなるリピーターの獲得に取り組み、業績向上に努めてまいります。

また、これまでも増して、遊園地の安全面について万全の体制を敷き、お客様に安心して楽しんでいただけるよう、施設の点検整備並びに園内環境整備の取り組みを基本とし、さらには、園内において様々な空間演出に力を入れ、賑やかさを創り出し、お客様により一層の楽しさを提供してまいります。

4. 連結財務諸表

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (平成26年12月31日) |
|----------------|--------------------------|--------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 241,291 | 273,610 |
| 受取手形及び売掛金 | 291,266 | 221,125 |
| 商品及び製品 | 37,236 | 16,399 |
| 原材料及び貯蔵品 | 57,395 | 61,887 |
| 販売用不動産 | 7,130 | 7,130 |
| 繰延税金資産 | 24,959 | 9,351 |
| その他 | 95,880 | 149,726 |
| 貸倒引当金 | △12,948 | △4,393 |
| 流動資産合計 | 742,212 | 734,839 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 13,190,622 | 13,265,728 |
| 減価償却累計額 | △8,704,411 | △8,996,195 |
| 建物及び構築物 (純額) | 4,486,211 | 4,269,533 |
| 機械装置及び運搬具 | 3,180,606 | 3,207,370 |
| 減価償却累計額 | △2,765,344 | △2,820,211 |
| 機械装置及び運搬具 (純額) | 415,261 | 387,158 |
| 土地 | 15,073,825 | 15,097,749 |
| リース資産 | 94,647 | 113,649 |
| 減価償却累計額 | △24,252 | △30,659 |
| リース資産 (純額) | 70,394 | 82,990 |
| 建設仮勘定 | 2,685 | 28,000 |
| その他 | 1,051,380 | 1,061,538 |
| 減価償却累計額 | △972,104 | △964,798 |
| その他 (純額) | 79,276 | 96,740 |
| 有形固定資産合計 | 20,127,654 | 19,962,171 |
| 無形固定資産 | | |
| その他 | 227,098 | 228,924 |
| 無形固定資産合計 | 227,098 | 228,924 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 267,489 | 308,968 |
| 繰延税金資産 | 302,641 | 303,326 |
| 退職給付に係る資産 | - | 93,732 |
| その他 | 143,240 | 60,360 |
| 貸倒引当金 | △9,783 | △1,100 |
| 投資その他の資産合計 | 703,586 | 765,287 |
| 固定資産合計 | 21,058,339 | 20,956,383 |
| 資産合計 | 21,800,551 | 21,691,223 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (平成26年12月31日) |
|---------------|--------------------------|--------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 81,455 | 82,839 |
| 営業未払金 | 100,271 | 92,679 |
| 短期借入金 | 3,767,513 | 3,739,446 |
| リース債務 | 17,416 | 19,526 |
| 未払金 | 308,933 | 291,773 |
| 未払法人税等 | 118,965 | 33,997 |
| 役員賞与引当金 | 10,630 | - |
| その他 | 128,263 | 128,269 |
| 流動負債合計 | 4,533,448 | 4,388,531 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,408,796 | 3,499,736 |
| 長期預り金 | 3,295,991 | 3,116,591 |
| リース債務 | 45,323 | 47,685 |
| 繰延税金負債 | 22,981 | 40,535 |
| 退職給付引当金 | 9,059 | - |
| 退職給付に係る負債 | - | 8,356 |
| その他 | 129,665 | 129,218 |
| 固定負債合計 | 6,911,818 | 6,842,122 |
| 負債合計 | 11,445,266 | 11,230,653 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,180,101 | 4,180,101 |
| 資本剰余金 | 4,767,834 | 4,767,834 |
| 利益剰余金 | 1,384,246 | 1,462,633 |
| 自己株式 | △2,992 | △2,992 |
| 株主資本合計 | 10,329,189 | 10,407,576 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 26,095 | 52,992 |
| その他の包括利益累計額合計 | 26,095 | 52,992 |
| 純資産合計 | 10,355,285 | 10,460,569 |
| 負債純資産合計 | 21,800,551 | 21,691,223 |

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) |
|----------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 売上高 | 7,873,615 | 7,518,582 |
| 売上原価 | 6,909,663 | 6,686,424 |
| 売上総利益 | 963,951 | 832,157 |
| 販売費及び一般管理費 | 603,397 | 589,244 |
| 営業利益 | 360,553 | 242,913 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 85 | 33 |
| 受取配当金 | 5,441 | 5,696 |
| 受取賃貸料 | 3,372 | 3,270 |
| 受取保険金 | 14,042 | 2,345 |
| 受取損害賠償金 | - | 66,329 |
| 助成金収入 | 5,758 | - |
| 雑収入 | 5,585 | 18,394 |
| 営業外収益合計 | 34,284 | 96,070 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 82,506 | 69,347 |
| 雑損失 | 2,752 | 1,002 |
| 営業外費用合計 | 85,259 | 70,350 |
| 経常利益 | 309,579 | 268,633 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 9,073 | 11,178 |
| 受取保険金 | 60,541 | - |
| 受取補償金 | 19,045 | - |
| 長期預り金戻入益 | - | 2,300 |
| その他 | 2,967 | - |
| 特別利益合計 | 91,627 | 13,478 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 8,687 | 330 |
| 災害による損失 | 23,191 | - |
| 廃棄費用 | 5,559 | - |
| その他 | - | 45 |
| 特別損失合計 | 37,438 | 375 |
| 税金等調整前当期純利益 | 363,768 | 281,735 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 152,595 | 91,916 |
| 法人税等調整額 | 19,393 | 18,393 |
| 法人税等合計 | 171,989 | 110,310 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 191,779 | 171,424 |
| 当期純利益 | 191,779 | 171,424 |

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) |
|----------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 191,779 | 171,424 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 37,060 | 26,897 |
| その他の包括利益合計 | 37,060 | 26,897 |
| 包括利益 | 228,839 | 198,321 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 228,839 | 198,321 |
| 少数株主に係る包括利益 | - | - |

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成25年1月1日 至平成25年12月31日)

(単位:千円)

| | 株主資本 | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|---------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 4,180,101 | 4,767,834 | 1,274,342 | △42,247 | 10,180,030 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △81,740 | | △81,740 |
| 当期純利益 | | | 191,779 | | 191,779 |
| 自己株式の処分 | | | △134 | 39,254 | 39,120 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | — |
| 当期変動額合計 | - | - | 109,904 | 39,254 | 149,158 |
| 当期末残高 | 4,180,101 | 4,767,834 | 1,384,246 | △2,992 | 10,329,189 |

| | その他の包括利益累計額 | | 純資産合計 |
|---------------------|--------------|---------------|------------|
| | その他有価証券評価差額金 | その他の包括利益累計額合計 | |
| 当期首残高 | △10,964 | △10,964 | 10,169,066 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | △81,740 |
| 当期純利益 | | | 191,779 |
| 自己株式の処分 | | | 39,120 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | 37,060 | 37,060 | 37,060 |
| 当期変動額合計 | 37,060 | 37,060 | 186,219 |
| 当期末残高 | 26,095 | 26,095 | 10,355,285 |

当連結会計年度（自平成26年1月1日 至平成26年12月31日）

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|--------|------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 |
| 当期首残高 | 4,180,101 | 4,767,834 | 1,384,246 | △2,992 | 10,329,189 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △93,037 | | △93,037 |
| 当期純利益 | | | 171,424 | | 171,424 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | 78,386 | - | 78,386 |
| 当期末残高 | 4,180,101 | 4,767,834 | 1,462,633 | △2,992 | 10,407,576 |

| | その他の包括利益累計額 | | 純資産合計 |
|---------------------|--------------|---------------|------------|
| | その他有価証券評価差額金 | その他の包括利益累計額合計 | |
| 当期首残高 | 26,095 | 26,095 | 10,355,285 |
| 当期変動額 | | | |
| 剰余金の配当 | | | △93,037 |
| 当期純利益 | | | 171,424 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 26,897 | 26,897 | 26,897 |
| 当期変動額合計 | 26,897 | 26,897 | 105,283 |
| 当期末残高 | 52,992 | 52,992 | 10,460,569 |

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) |
|-------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前当期純利益 | 363,768 | 281,735 |
| 減価償却費 | 427,325 | 423,303 |
| 退職給付引当金の増減額 (△は減少) | △4,708 | △9,059 |
| 退職給付に係る資産の増減額 (△は増加) | - | △93,732 |
| 退職給付に係る負債の増減額 (△は減少) | - | 8,356 |
| 役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少) | △42,538 | - |
| 貸倒引当金の増減額 (△は減少) | 2,657 | △17,239 |
| 役員賞与引当金の増減額 (△は減少) | 13,730 | △13,730 |
| 受取利息及び受取配当金 | △5,527 | △5,730 |
| 支払利息 | 82,506 | 69,347 |
| 受取保険金 | △73,011 | △2,345 |
| 固定資産売却損益 (△は益) | △9,073 | △11,178 |
| 固定資産除売却損益 (△は益) | 8,687 | 330 |
| 売上債権の増減額 (△は増加) | △37,079 | 77,357 |
| たな卸資産の増減額 (△は増加) | 1,330 | 16,345 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 17,093 | △6,208 |
| 未払金の増減額 (△は減少) | 33,745 | △24,991 |
| 未払消費税等の増減額 (△は減少) | 27,276 | 42,203 |
| その他 | △26,223 | 1,839 |
| 小計 | 779,959 | 736,602 |
| 利息及び配当金の受取額 | 5,527 | 5,730 |
| 利息の支払額 | △81,705 | △69,341 |
| 保険金の受取額 | 73,011 | 2,345 |
| 法人税等の支払額 | △121,412 | △175,292 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 655,379 | 500,044 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | △5,800 | △5,400 |
| 定期預金の払戻による収入 | 7,400 | 6,900 |
| 有価証券の売却による収入 | - | - |
| 有形固定資産の取得による支出 | △467,670 | △245,121 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 10,380 | 11,722 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △897 | △7,479 |
| 貸付金の回収による収入 | 3,055 | 400 |
| 投資有価証券の取得による支出 | △24,442 | △500 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 13,200 | - |
| その他 | △44 | 90 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △464,819 | △239,388 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額 (△は減少) | △141,850 | △100,000 |
| 長期借入れによる収入 | 1,770,000 | 1,530,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △1,581,895 | △1,367,127 |
| 長期預り金の受入による収入 | - | 1,300 |
| 長期預り金の返還による支出 | △201,000 | △178,400 |
| リース債務の返済による支出 | △25,265 | △19,713 |
| 配当金の支払額 | △81,628 | △92,897 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △261,639 | △226,837 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | △71,078 | 33,818 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 310,870 | 239,791 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 239,791 | 273,610 |

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

また、グループ再編の一環として、平成25年4月1日に連結子会社である有明リゾートシティ株式会社が連結子会社であるグリーンランドサービス株式会社を吸収合併し、「その他の事業」のうち、大部分を占めていた労働者派遣業務を廃止いたしました。

当連結会計年度より、報告セグメント区分の見直しを行い、有明リゾートシティ株式会社の「遊園地事業」を「ホテル事業」に変更しております。また、「その他の事業」につきましては、労働者派遣業務の廃止により量的な重要性がなくなったため、「ホテル事業」に含めております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを開示しております。

、

遊園地事業 : 遊園地・スキー場等の経営、運営

ゴルフ事業 : ゴルフ場の経営、運営

ホテル事業 : ホテルの経営、運営

不動産事業 : 不動産の賃貸、売買

土木・建設資材事業 : 建設資材の製造、販売、運搬

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:千円)

| | 報 告 セ グ メ ン ト | | | | | | 調整額 (注) 1、2 | 連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 3 |
|-----------------------|---------------|-----------|-----------|---------|-------------------------|-----------|-------------------|----------------------------------|
| | 遊園地事業 | ゴルフ事業 | ホテル事業 | 不動産事業 | 土 木 ・ 建 設 資 材 事 業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 4,156,575 | 1,008,442 | 2,130,959 | 166,984 | 410,653 | 7,873,615 | — | 7,873,615 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 5,173 | 11,292 | 32,585 | 20,629 | 18,280 | 87,962 | △87,962 | — |
| 計 | 4,161,748 | 1,019,734 | 2,163,545 | 187,614 | 428,934 | 7,961,577 | △87,962 | 7,873,615 |
| セグメント利益又は損 失(△) | 448,980 | 5,463 | 29,377 | 115,791 | 55,270 | 654,883 | △294,329 | 360,553 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 155,763 | 54,227 | 165,849 | 18,402 | 28,840 | 423,083 | 4,241 | 427,325 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△290,342千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

(単位:千円)

| | 報 告 セ グ メ ン ト | | | | | | 調整額 (注) 1、2 | 連 結 財 務 諸 表 計 上 額 (注) 3 |
|-----------------------|---------------|-----------|-----------|---------|-------------------------|-----------|-------------------|----------------------------------|
| | 遊園地事業 | ゴルフ事業 | ホテル事業 | 不動産事業 | 土 木 ・ 建 設 資 材 事 業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 3,854,773 | 1,023,001 | 2,159,590 | 160,739 | 320,477 | 7,518,582 | - | 7,518,582 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 3,950 | 11,567 | 26,430 | 5,577 | 10,283 | 57,810 | △57,810 | - |
| 計 | 3,858,724 | 1,034,569 | 2,186,020 | 166,317 | 330,761 | 7,576,392 | △57,810 | 7,518,582 |
| セグメント利益又は損 失(△) | 364,821 | 33,576 | △8,758 | 93,990 | 48,501 | 532,132 | △289,218 | 242,913 |
| その他の項目 | | | | | | | | |
| 減価償却費 | 152,613 | 56,272 | 174,122 | 20,147 | 15,572 | 418,728 | 4,574 | 423,302 |

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△290,934千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

| | 前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) |
|--------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 1,001.72円 | 1,011.90円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 18.73円 | 16.58円 |

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日) | 当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日) |
|------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 当期純利益(千円) | 191,779 | 171,424 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益(千円) | 191,779 | 171,424 |
| 期中平均株式数(千株) | 10,237 | 10,337 |

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

役員の変動

1. 代表者の変動

該当事項はありません。

2. その他の役員の変動

(1) 新任取締役候補

取締役(常勤) 田中宏昌(現 グリーンランド開発株式会社代表取締役社長)

(2) 昇任予定取締役

常務取締役(常勤) 松野隆徳(現 取締役総務部長兼ゴルフ事業部総支配人)

(3) 退任予定取締役

常務取締役(常勤) 北岡鋭毅(現 常務取締役遊園地事業部長)

※当社常勤監査役に就任予定

(4) 新任監査役候補

監査役(常勤) 北岡鋭毅(現 常務取締役遊園地事業部長)

監査役(非常勤) 藤田直己(現 公認会計士 公認会計士藤田直己事務所所長)

※北岡鋭毅氏は、監査役会における監査役の互選により、常勤監査役に就任予定であります。

※藤田直己氏は、社外監査役の候補者であります。

(5) 退任予定監査役

監査役(常勤) 吉田博文

監査役(非常勤) 永利新一

※吉田博文氏は当社顧問に就任予定

3. 就任予定日

平成27年3月30日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

田中 宏 昌 (タナカ ヒロアキ) 昭和37年4月4日生 52歳
 昭和62年 4月 当社入社
 平成18年 1月 当社メンバーズゴルフ事業部総支配人
 平成20年 1月 当社営業部次長
 平成20年 1月 有明リゾートシティ株式会社取締役ブランカ総支配人
 平成21年 2月 当社営業部次長兼社長室長
 平成23年 3月 グリーンランド開発株式会社常務取締役
 平成25年 3月 同社代表取締役社長 (現任)

新任監査役候補の略歴

北岡 鋭 毅 (キタオカ エイキ) 昭和27年2月14日生 63歳
 平成13年 4月 当社入社
 平成13年 9月 当社総務部長
 平成17年 3月 グリーンランド開発株式会社代表取締役社長
 平成18年 3月 当社取締役不動産事業部担当
 平成20年 1月 当社取締役遊園地事業部長、不動産事業部担当
 平成22年 3月 当社常務取締役遊園地事業部長、不動産事業部担当
 平成25年 3月 当社常務取締役遊園地事業部長、不動産事業部、施設部、グリーンランド開発株式会社担当
 平成26年 1月 当社常務取締役遊園地事業部長 (現任)

藤田 直 己 (フジタ ナオキ) 昭和28年6月12日生 61歳
 昭和60年10月 太田昭和監査法人 (現新日本有限責任監査法人) 入社
 平成24年 7月 公認会計士藤田直己事務所所長 (現任)

グリーンランドリゾート株式会社 新体制 (平成27年3月30日)

| | | |
|---------|-----------|-----------------------------|
| 代表取締役社長 | 江里口俊文《再任》 | |
| 常務取締役 | 重光 敬明《再任》 | (営業部長) |
| | | (有明リゾートシティ株式会社 代表取締役社長) |
| 常務取締役 | 松野 隆徳《昇任》 | (遊園地事業部長) |
| 取締役 | 渡邊 和雄《再任》 | (有明リゾートシティ株式会社 常務取締役総支配人) |
| 取締役 | 幕 宰《再任》 | (不動産事業部長) |
| | | (グリーンランド開発株式会社代表取締役社長) |
| 取締役 | 田中 宏昌《新任》 | (総務部長兼ゴルフ事業部総支配人) |
| 社外取締役 | 有村 文章《再任》 | (西部瓦斯株式会社 取締役常務執行役員) |
| 社外取締役 | 上野 豊徳《再任》 | (株式会社肥後銀行取締役専務執行役員 (代表取締役)) |
| 常勤監査役 | 北岡 鋭毅《新任》 | |
| 社外監査役 | 中尾 哲郎《再任》 | (中尾総合法律事務所所長) |
| 社外監査役 | 水本 忠敬《再任》 | (水本税理士事務所所長) |
| 社外監査役 | 藤田 直己《新任》 | (公認会計士藤田直己事務所所長) |

以 上